

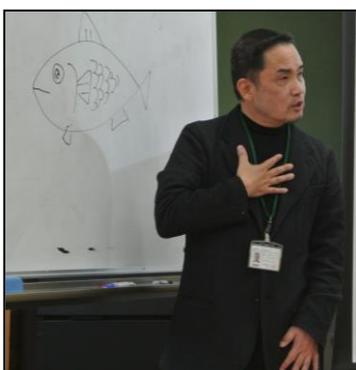


は 励んで光る
た 愉しんで光る
つ つながって光る



文責: 富永 千晶

1/30 (火) 育友会人権・同和問題研修会



「親子で本気になって考えよう！いじめとスマホの被害 ～ワークショップを通して～」と題して、西九州大学短期大学部教授である牛丸和人先生に講演していただきました。

いじめは何故起こるのか、自分はいつも正しいと思っていないか、違うことやできないことは悪いことか、スマホやゲーム依存症になっていないか等、ワークショップを取り入れて分かりやすく話していただきました。

子どもたちは、身を乗り出して聞き入っていました。

【子どもたちの感想より】

- 依存症や犯罪に巻き込まれることがないように、**約束を守ろう**と思いました。
- 叱られることは、**守ってもらうこと**でもあると分かり、よかったです。
- 今までいじめに気付いていなかったので、**気付けるようになる**と思いました。
- 「**ぼくモグラキツネ馬**」の絵本を読みたいと思いました。
- 「助けて」が一番勇気のある言葉だと聞いて、「**助けて**」と言うことは**恥ずかしいことではない**と分かりました。
- いじめは、その人だけでなく、その人の**家族も苦しむ**ので絶対にしてはいけないと思いました。ネットのいじめも避けたいです。
- きれいな色、汚い色はない**という話が一番印象に残りました。



参加された保護者のみなさんからも次のような感想をいただきました。

- 人として**どんな風に生きていけば良いのか**を考えさせられました。
- 帰ったら、子どもたちと「**自分にできること**」「**考え直すこと**」を話したいと思います。
- これからの子どもたちの教育に大切な話を聞いてよかったです。子どもたちとの**会話**を増やします。
- ゲームやタブレット等の**使用ルールの徹底**をしなければと改めて思いました。
- 脳の思い込みや錯覚等を体験させてもらいながら、いじめやスマホ被害を**自分事**として捉えました。
- 子どもの相手はゲームになっていますが、**話を聞く時間**を大切にしたいです。
- いじめについての話では、**じ～ん**と胸にきました。
- みんな違っていい、ものの見方や捉え方が人によって違うことを**認め合う**ことが大切だと思いました。
- 子どもが親に**何でも話しやすい関係**を作らないといけないと思いました。
- とにかく人を**尊重**して大人から意識を変えていく必要があると思います。

「たてわり班対抗一輪車リレー」練習風景

2/20(火)に予定されているたてわり班対抗一輪車リレーに向けて、練習が始まりました。上学年が棒の端を持ち、下級生の速さに合わせて進んでいきます。

最も難しいのは、棒の受け渡しです。ここがうまくいけばタイムが縮まります。

本番までの練習を通して、たてわり班の絆がますます深まっていくことを期待しています。**どの班もガンバレ!!!**



1/29(月)福祉体験

3年生が、伊万里市社会福祉協議会やボランティアの方の指導の下、目の不自由な方の疑似体験を行いました。

アシスト役を経験して、相手を安全に歩行させることの難しさを感じ、アイマスクで歩行する経験を通して、早めに声をかけないと不安になることに気付きました。

私自身、バス停で白杖の方を見かけて、遠目で見守りはしましたが、何も声をかけられなかった経験があります。

まずは、困っている人に「**どうしましたか?何かできることはありますか?**」と声をかけることができるといいなあと思います。



新委員会スタート

2月から、委員会活動に4年生が加わり、新体制でスタートしました。

しばらく6年生が後輩をサポートしますが、いよいよ5年生が波多津小のリーダーとして様々な面で表舞台に立つこととなります。



張り切ってガンバレ 4年生
まかせたぞ! 5年生
最後まで頼むよ 6年生